



人工授精で誕生したオウサマペンギンのヒナ。褐色の羽毛は夏ごろには大人の羽に変わるとい
 昨年12月29日撮影（鴨川シーワールド提供）

世界初 オウサマペンギンの人工授精成功

鴨川シーワールド

鴨川市の鴨川シーワールドは2日、オウサマペンギンの人工授精に成功したと発表した。オウサマペンギンの人工授精での産卵、孵化は世界初としている。

シーワールドによると、園内のオウサマペンギンの繁殖が停滞し、昨年7月に数羽の雌に人工授精を実施。うち1羽が産卵、同9月に孵化した。ヒナは雄で現在、親と同じ大きさに成長しているが、2月のDNA型鑑定により人工授精で誕生したことが確定した。

オウサマペンギンは、コウテイペンギンに次いで大きな種類のペンギン。日本でのペンギンの人工授精の成功例は、平成28年、山口県下関市の海響館のフンボルトペンギン、同年の大阪市海遊館でのイワトビペンギンに次いで3例目。世界でも、米国での2014年のマゼランペンギンが初めてという。

シーワールドは「今回の成果で得られた技術と知識が、他の絶滅危惧種を含む鳥類に応用できる可能性がある」としている。